

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

タバココナジラミのウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）保毒状況と防除対策（技術情報第12号）について（送付）

ウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）の保毒虫数（誘殺数×保毒虫率）は8月に多かったが、9月に減少した。まん延防止のため、防除対策を徹底しましょう。

記

1 調査結果

- 1) ウリ科野菜栽培地域を対象に8月に2地域、台風15号通過後の9月に3地域でタバココナジラミの誘殺数およびCCYVの保毒率を調査した。8月に、ウリ科野菜栽培地域2地域に設置した黄色粘着板（10×10cm）に誘殺されたタバココナジラミは、1.0頭/日/枚で前年（1.7頭/日/枚）および平成25年（3.8頭/日/枚）に比べて少なく、また、9月の黄色粘着板調査では0.2頭/日/枚と少ない誘殺数であった（図1）。
- 2) 8月に黄色粘着板に誘殺されたタバココナジラミのCCYVの平均の保毒虫率は32.2%で前年（8.7%）および平成25年（3.8%）に比べて高かった。しかし、9月に黄色粘着板に誘殺されたタバココナジラミではCCYVの保毒虫は確認されなかった（図2）。
- 3) 退緑黄化病の発生リスクの指標となる保毒虫数は8月は0.36頭/日/枚で前年（0.22頭/日/枚）および平成25年（0.14頭/日/枚）より多かったが、9月には0.00頭/日/枚に減少した（図3）。

2 防除対策

- 1) これから定植するほ場では、タバココナジラミを栽培ほ場に「入れない」対策を徹底する。施設のサイド開口部に目合い0.4mm防虫ネット、谷換気部に目合い1mm以下の防虫ネットを被覆する。また、すでに設置しているハウスについては、被覆ビニルや防虫ネットに破損や隙間が無い点検を行い、必要に応じて補修する。
- 2) 定植前に、タバココナジラミに登録のある薬剤を処理する。育苗期に処理ができていない場合は、定植時に登録のある薬剤を必ず施用する。また、定植前処理剤の効果が低下する定植20～30日後に成虫に効果の高い薬剤を散布する。
- 3) 育苗ハウスから苗を運ぶ際には、移動中にタバココナジラミが寄生しないよう、運搬車等の荷台を防虫ネットや幌等で覆う。
- 4) タバココナジラミを施設外に「出さない」対策を徹底する。現在栽培中のほ場では、栽培終了まで、タバココナジラミの防除を徹底する。
- 5) 栽培終了後は直ちに密閉処理を行い、ほ場内のタバココナジラミを死滅させる。露地栽培などの密閉できないほ場では、成虫に効果の高い薬剤で防除したうえで植物残さを早急に片付ける。
- 6) 施設内の発病株や周辺の野良生えは、重要な伝染源となるので除去する。
- 7) ウリ類周年栽培地帯におけるメロン退緑黄化病発生リスクは、5月から12月まで高い水準で推移する（農業研究成果情報 No. 597(平成25年5月)ウリ類周年栽培地帯でのメロン退緑黄化病発生リスクの季節変動 http://www.pref.kumamoto.jp/common/UploadFileOutput.ashx?c_id=3&id=6658&sub_id=1&flid=21&dan_id=1 参照）。

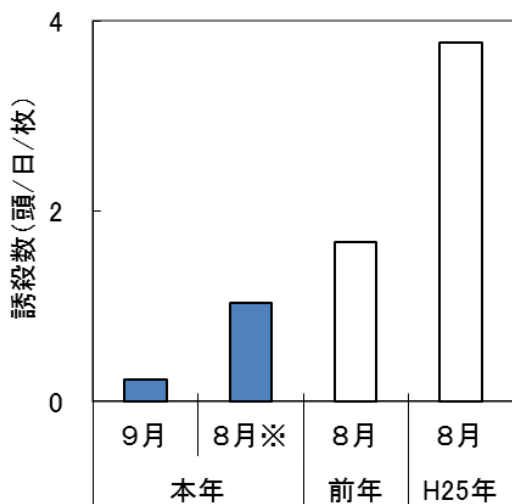


図1 ウリ科栽培地帯に設置した黄色粘着板によるタバココナジラミ成虫誘殺数

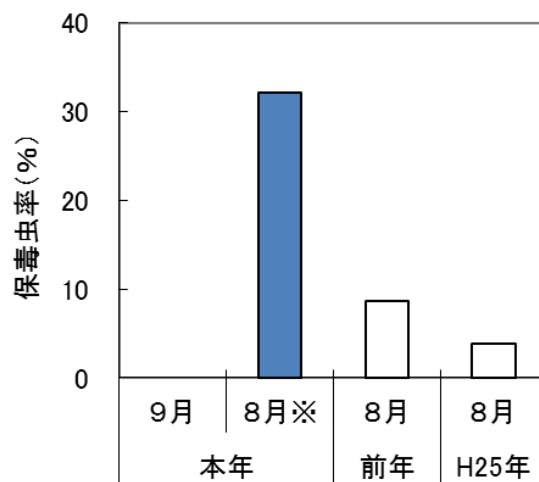


図2 粘着板に誘殺されたタバココナジラミ成虫のウリ類退緑黄化ウイルス保毒虫率

黄色粘着板(10×10cm)をウリ科栽培地域に約7日間、1地点当たり4枚設置。誘殺数は、1枚当たりの1日の誘殺数(頭/日/枚)。調査地域は3地域。
※本年8月のみ2地域。

黄色粘着板誘殺されたコナジラミをRT-PCRにより検査し、保毒虫率(保毒虫/検定数)を算出。調査地域は3地域。
※本年8月のみ2地域。

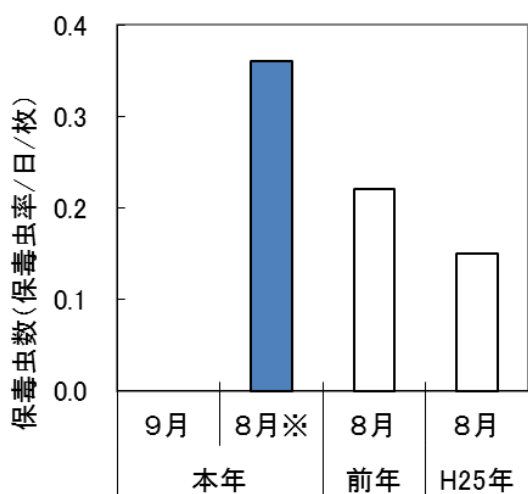


図3 ウリ科栽培地帯のタバココナジラミ成虫の保毒虫数

保毒虫数(保毒虫/日/枚)は、誘殺数(頭/日/枚)×保毒虫率(保毒虫/検定数)。調査地域は3地域。
※本年8月のみ2地域。

熊本県農業研究センター生産環境研究所
病虫害研究室 予察指導係(病虫害防除所)
担当: 荒木、児玉 TEL: 096-248-6490